

第2回子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和6年(2024年)9月6日
健康福祉部



第2回子ども・子育て会議委員発言概要（基本的な方針・計画の策定趣旨関係1）

- 基本的な方針案に記載の「身近な大人たち」には保護者会の後援会の保護者も位置付けてほしい。
- 基本的な方針案に記載の「ライフステージに応じた切れ目のない支援」は非常に大事と思う反面、難しさがある。
- こども時代を幸せに過ごせた人はこどもを持ちたいと思い、こども時代を不幸に過ごすと、大人になってもこどもを持ちたくないとなるのではないか。ユニセフの調査では日本は精神的幸福度がほとんど最下位に近い。こどもが幸せと思って過ごせる状況を作ることと、つらいと思って生きているこどもたちを助けられる支援を行うことが大事。基本的な方針案に記載の「こども・若者が幸せに成長できるようにする」だと、大人は「成長」してほしいと思っているとしても、こどもたちは今を生きる主体であって、こどもの今を大事にしていくことが大事なので、「こども・若者が幸せに暮らし、成長できるようにする」とするか、「今を大事にする」という言葉を入れることを検討されたい。
- 計画の策定趣旨の「キラキラ輝く」という言葉は、具体的にどういうことを言っているか掴みにくいところがあるので、「笑顔」や「幸せ」、「夢や希望を持てる状態」等、イメージを県民と共有していくのが大事。
- こどもたちがどう進んでいくべきかを自分たちで考え、自分たちで行動できるように育てていくことが「キラキラ輝く」につながるのではないか。
- 基本的な方針案に記載の「県民」という言葉は距離があるような感じがあり、「市民」という語のほうが距離が近い。
- トップダウンよりボトムアップの方が強いから、下から湧き上がるような機運を高める政策も必要。
- 基本的な方針では、「こどもまんなか」と打ち出すのだから、こどもが真ん中になんないといけない。全てのこども・若者が幸せに暮らし、成長できるようにするという方針を一番大切にしてほしいし、順番を一番前にすることでこの方針を一番大切にしていることがこども・若者、県民にも伝わる。こどもが本当に求めているものは何か大事。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（基本的な方針・計画の策定趣旨関係2）

- 基本的な方針案にこどもや若者、子育て当事者を支援する人たちを支援するという方針が入ったことはありがたい。「身近な大人たち」には家族に近い人も入るだろうから、上記の方針の次くらいに位置付けてほしい。
- 基本的な方針案で、3番目に「結婚・妊娠・出産」、4番目に「ライフステージ」とし、「関係者との連携・機運醸成」や「県民とともに未来を創る」は方法論ということで最後でいい。
- 「こどもまんなか熊本の考え方」のサイクル内で、「学力の向上」とあるが、障がいのあるこどもたちも含めた一人一人の個性に応じた学びを実現する魅力ある学校づくりの方が大事なので、「個別最適な学び」に変える方が良いのではないか。
- 「こどもまんなか熊本の考え方」で、「あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者、子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取組みを実施する熊本」とあるが、子育てやこどもを支援する社会的なつながりの団体を丁寧に追う観点から、こども大綱と合わせて、「家庭、学校、園、地域企業、民間団体等が、…」と書いてはどうか。
- 基本的な方針の順番の変更は、計画の策定趣旨の「安心して結婚・妊娠・出産・子育てができる」と「こども・若者がキラキラ輝く」の記載順にも関わる。大事にしたい理念を踏まえていただきたい。
- 子育てのために会社を休む方を「子持ち様」と言って、分断が生まれないようにすることも意識されたい。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係1）

- こども未来創造会議（出向く型）の内容は、素晴らしい意見や企業の取組の様子がわかるので、県民とも情報共有するといいい。
- こども未来創造会議のまとめ資料に家庭科の記載があったが、教員の配置にも目配りされたい。
- 家庭科の教員不足という話もあるが、学校教育課と連携して、保育の現場で体験学習をしてほしい。生徒への良い影響があるほか、保育士不足の解消にもつながる。
- いくつかの自治体で行われている保育留学は、熊本県のこどもだけでなく日本全国のこどもを対象とすることで、熊本県のまちづくり等の地域貢献になる。
- ブライト企業の要件に子育てをしっかりとできる企業ということを入れてほしい。
- ヤングケアラーや子どもの貧困対策、障がい児支援、医療的ケア児の支援や虐待防止、社会的擁護等の福祉に関わる部分にどう対処するか、検討するかも計画に記載されたい。
- ヤングケアラー等の弱き声、小さな声も含めて耳を傾けて対話しながら進めていただきたい。
- 人材難の中で、熊本に残ってほしい、又は一遍出ても帰ってきてほしいと考えており、行政としてまちづくりをどう進めていくかも入れてほしい。
- 郷土愛を根付かせるという視点を置いてほしい。
- 土木や公共交通などの様々な部局が関与して頑張ってもらいたい。
- 県として地域格差や地域同士の連携にどう対応するかも検討するとともに、学力だけでなく人間力をどう育むかも重要視していただきたい。
- こどもや若者とともに社会をつくるという認識の下、こどもや若者が安心して意見を述べることができる場や機会をつくるとともに、意見を持つための様々な支援を行い、社会づくりに参画できる機会を保障することが重要。特に、どういう会議でどういうことが求められているのか、どう参画してほしいのか等の意見を持つための支援のほか、会議に参加するこども・若者を支えながら参画してもらうことが重要。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係2）

- 子育てや出産が大変だということばかり強調されると、若い人たちの印象もそうになっていくので、ブライト企業等のロールモデルを見える化して、大変ではない部分のアピールも同時にしておくべき。
- こども誰でも通園制度は一番人手のかかる0～2歳を対象とするので、実施する保育所をどう確保するのが重要。
- 人権教育は、学校ではされているが、就職後にハラスメントがなされる現状を踏まえて、職場環境での人権教育も大事。
- 県には、こども家庭センターの在り方についての各市町村に対する指導や、こども家庭センターに必要な社会福祉士や心理士、家庭相談員の人材確保にも努めてほしい。
- 職員が子育ての関係でお休みをすると職場で困る状況は出てくるので、職員が安心してお休みできるような支援があるといい。
- 地域のボランティアも計画に何かしら盛り込んでほしい。
- 市町村ごとの子ども・子育て会議にも県の方からフィードバックをしながら進めていくといい。
- 全ての子どもという記載がこども基本法の基本理念で出てくるが、認可保育園と認可外保育園で取扱いが違うことを踏まえ、全てのこどもという基本理念を忠実につぎ込んでほしい。
- 人材紹介会社への規制を進めてほしい。
- ダウン症のこどもへの対応等、行政の方で持っている情報を保育園にも広く展開してほしい。
- 幼稚園や保育園が特別支援に関わるこどもであることを指摘する最初のアクターであることに留意されたい。
- こどもが将来こどもを産みたい・育てたいと思える子育てをすることが大事。
- 保育士就学資金の対象となる幼稚園の種別を明確化して広報されたい。